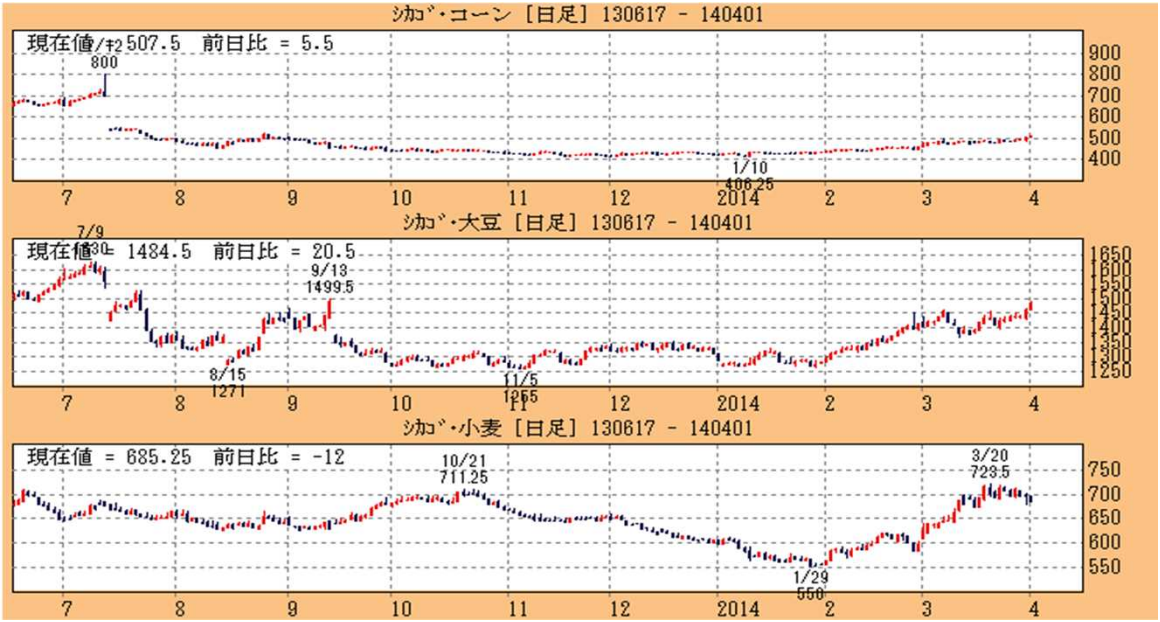
COMMODITY INTELLIGENCE

週刊穀物

世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシと大豆が上昇、小麦は下落

発行日　：　2014/4/2



4月1日のシカゴトウモロコシ5月限は5.50セント高の507.50セント。安寄りしたが、5ドル台を維持したあとは、投機買いが入って7カ月ぶりの高値に急伸年初来高値を更新した。2013年9月3日以来の高値水準。昨日の米農務省報告で、四半期在庫・作付意向面積が予想を下回ったことや、テクニカル改善、産地の低温による作付け遅れ懸念が支援材料。昨日の米農務省報告で、3月1日在庫は前年同期を上回ったものの、予想平均を1億Bu以上下回ったことが好感された。また、作付意向面積は9170万エーカーと昨年実績（9536万エーカー）を下回り、予想平均を下回ったことも支援材料。米中西部は季節外れの気温低下に見舞われ、今後雨が予報されることも、作付け遅れや大豆への作付け転換が予想されて新穀限月の支援材料となった。利食い売りで後退したが、立会時間の始値で下げ止まったあとは、投機買いで地合いを強めた。ドル安も強材料。ウクライナの農業・食糧省によれば、同国の3月の穀物輸出量は298万トンと、2月の282万トンから増加した。

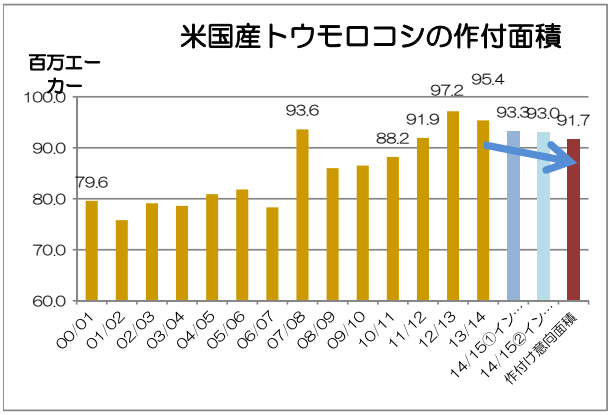
4月1日のシカゴ大豆５月限は20.50セント高の1484.50セント。売りが先行したが、コーンの上値追いや四半期在庫の前年割れをはやした買いで前日高値（1466.50セント）を突破した。一代高値更新によるテクニカル買いも入った。

立会時間は、12.50セント高で寄り付いたあと、1475.50セントまで後退したが、押し目買いが入って時間外取引の高値を抜き、一代高値を1491.50セント（27.50セント高：1.9%）まで更新した。当限連続足では2013年7月23日以来の高値水準。昨日の米農務省報告で、3月1日在庫が前年同期を下回ったことから、期末在庫の下方修正観測が広がった。上昇トライアングルの抵抗を上放れて強気を確認、テクニカル買いも誘った。ドル安も強材料。作付意向面積は予想平均を上回たが、現在のような低温・降雨などの天候不順でコーンの作付けが遅れれば、大豆の作付面積の一層の増加が予想されることから、新穀限月の反発力は限られた。

独オイル・ワールド誌は、ブラジル及びパラグアイで大豆の裏作が増えると予想した。南米では現在、大豆の収穫が行われているが、これまで大豆収穫のあとにコーンを植えた農家が、今年は大豆の作付けを計画しているとのこと。同誌は、ブラジルの裏作面積を75万ヘクタール（昨年実績13万ヘクタール）、パラグアイを55万ヘクタールと予想している。

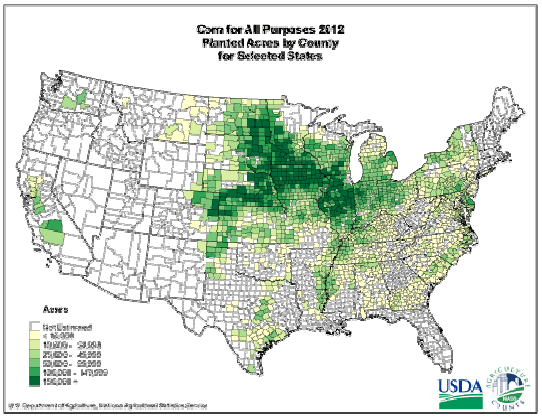
4月1日のシカゴ小麦5月限は12.00セント安の685.25セント。前日の取引レンジ内での値動きに終始した。下値支持線は２０日移動平均の６８３．７５セント近辺。 テキサス、オクラホマ両州など乾燥天候に悩む米プレーンズ南部では、今週末は 少量の雨が見込まれているが、水分が不足した状況は今後も続くとみられている。 米中西部の冬小麦の作柄はまずまずで、3月30日現在のイリノイ州の作柄は「良」以上が約半分（47%）だった。小麦は期近が急反落。終値の前日比は12.00セント安～3.50セント高、中心限月の5月限は12.00セント安の685.25セントで引けた。5月限は、安寄りしたあと、押し目買いで698.00セントまで反発したが、前日高値（702.00セント）を試す勢いはなく、戻り売りで値を消した。コーンや大豆が上値を追ったが、小麦の四半期在庫は予想平均を上回ったことが利食い売りを誘った。米プレーン南部に小雨が予報されたことも弱材料となり、683.50セントまで値を消した。冬小麦の作柄悪化やコーン急伸で持ち直したが、終盤安値に接近した。ファンドは6000枚の売り越し。（日本先物情報ネットワーク）

トウモロコシの作付意向面積



年度	作付面積	前年比	収穫面積	収穫率	単収	生産高
	百万エーカー	(%)	百万エーカー	(%)	Bu/Arc	百万bus
05/06	81.8	+1.1%	75.1	91.8%	148	11,114
06/07	78.3	▲4.3%	70.6	90.2%	149.1	10,535
07/08	93.6	+19.5%	86.5	92.4%	151.1	13,074
08/09	86	▲8.1%	78.6	91.4%	153.9	12,101
09/10	86.5	+0.6%	79.6	92.0%	164.7	13,092
10/11	88.2	+2.0%	81.4	92.3%	152.8	12,447
11/12	91.9	+4.2%	84.0	91.4%	147.2	12,360
12/13	97.2	+5.7%	87.4	89.9%	123.4	10,780
13/14	95.4	▲1.8%	87.7	91.9%	158.8	13,925
14/15	91.7	▲3.9%				

トウモロコシの作付意向面積は91,691千エーカーであった。これはインフォーマエコノミクス社が3月20日に予想した前年比▲2.1%減の93,000千エーカーより少なく、前年比▲3.9%減であった、

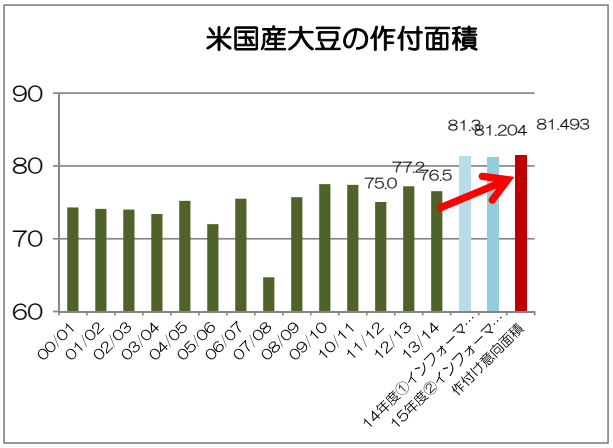


米国のトウモロコシの作付地

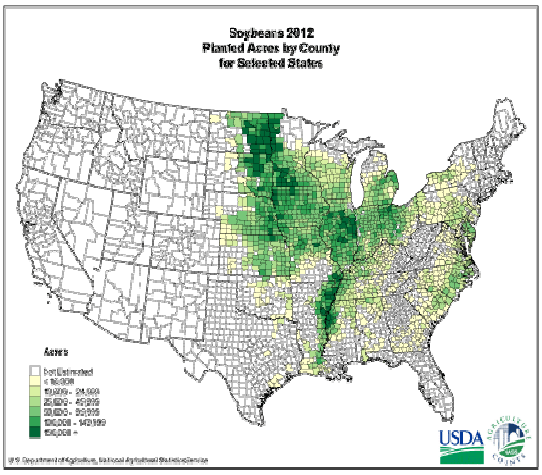
大豆の作付意向面積

年度	作付面積	前年比	収穫面積	収穫率	単収	生産高
	百万エーカー	(%)	百万エーカー	(%)	Bu/Arc	百万bus
05/06	72	▲4.3%	71.3	99.0%	43	3,063
06/07	75.5	+4.9%	74.6	98.8%	42.7	3,188
07/08	64.7	▲14.3%	64.1	99.1%	41.7	2,676
08/09	75.7	+17.0%	74.7	98.7%	39.7	2,967
09/10	77.5	+2.4%	76.4	98.6%	44	3,359
10/11	77.4	▲0.1%	76.6	99.0%	43.5	3,329
11/12	75.0	▲3.0%	73.8	98.3%	41.9	3,094
12/13	77.2	+2.9%	76.2	98.7%	39.8	3,034
13/14	76.5	▲0.9%	75.9	99.1%	43.3	3,289
14/15	81.5	+6.5%				

大豆の作付意向面積は81,493千エーカーであった。これはインフォーマエコノミクス社が3月20日に予想した前年比+6.1%増の81,204千エーカーより少し多く、前年比+6.15%増であった、



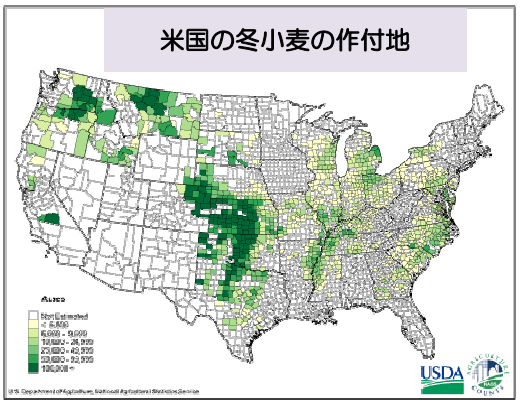
米国の大豆の作付地



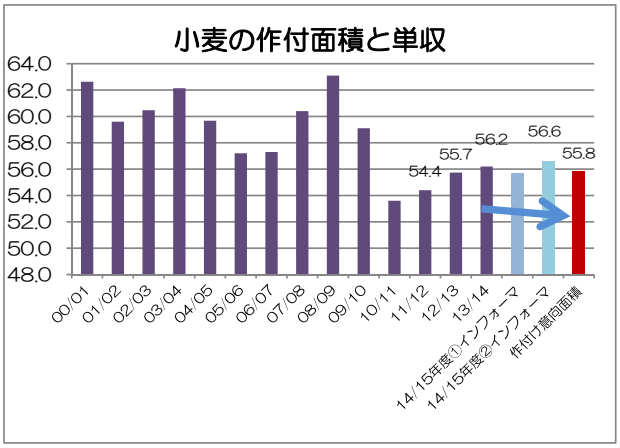
年度	作付面積	前年比	収穫面積	収穫率	単収	生産高
	百万エーカー	(%)	百万エーカー	(%)	Bu/Arc	百万bus
05/06	57.2	▲4.1%	50.1	87.6%	42	2,105
06/07	57.3	+0.2%	46.8	81.7%	38.7	1,812
07/08	60.4	+5.4%	51	84.4%	40.5	2,067
08/09	63.1	+4.5%	55.7	88.3%	44.9	2,500
09/10	59.1	▲6.3%	49.9	84.4%	44.4	2,218
10/11	53.6	▲9.3%	47.6	88.8%	46.4	2,207
11/12	54.4	▲8.0%	45.7	84.0%	43.7	1,999
12/13	55.7	+4.3%	49.0	88.0%	46.3	2,269
13/14	56.2	+0.8%	45.2	80.4%	47.2	2,130
14/15	55.8	▲0.7%				

小麦の作付意向面積

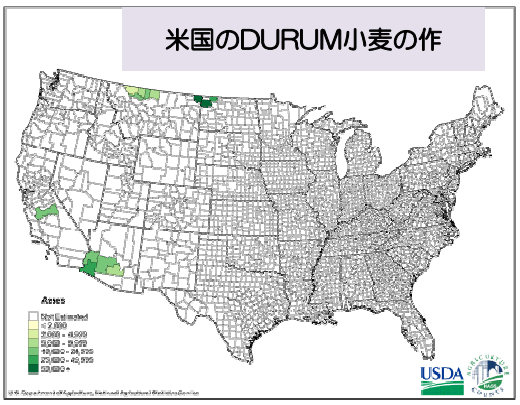
米国の冬小麦の作付地



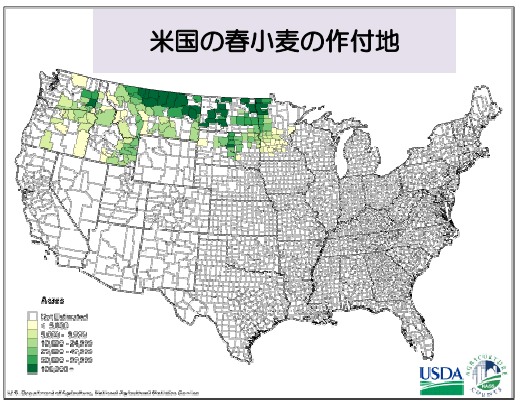
小麦の作付面積と単収



米国のDURUM小麦の作



米国の春小麦の作付地



全小麦の作付意向面積は55,815千エーカーであった。これはインフォーマエコノミクス社が3月20日に予想した前年比▲0.8%減の56,648千エーカーより少し多く、前年比▲0.7%増であった、

TOPICｓ　米国の天候

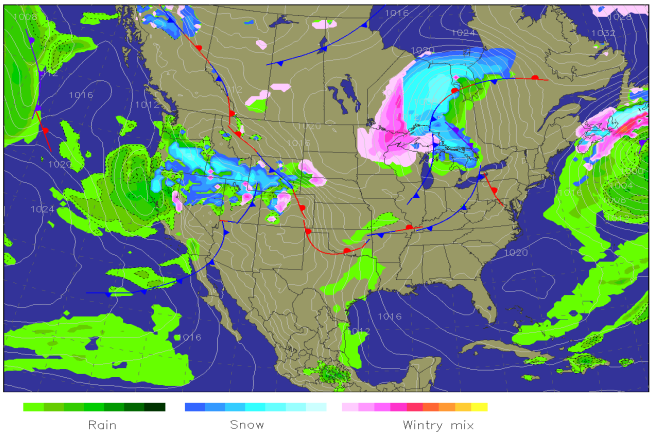
米国産地の天気概況は以下の通り（米農務省HPの天気概況及び予報を要約）。

コーンベルトは、ミネソタ州、ウィスコンシン州北部で雪が残る一方、ミシガン州、オハイオ州でにわか雨が通過している。 南部は、散発的なにわか雨が土壌水分を適度な水準に維持している。各地でさまざまな作物の作付け遅れが発生している。テキサス州を例にとると、3月30日現在の作付けはコーン28%、ソルガム21%、コメ10%、綿花6%が終了したが、過去5年平均は順に48%、38%、34%、7%だった。

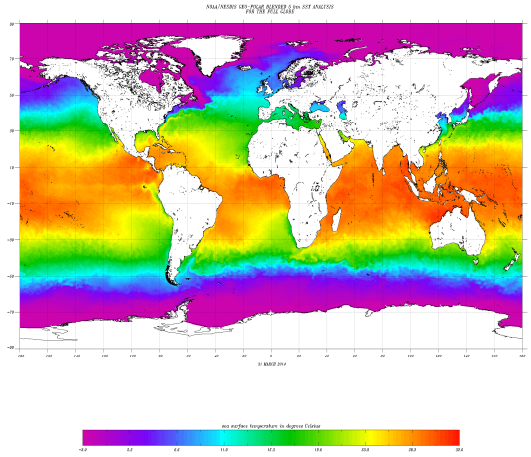
プレーンズは、南北ダコタ州の雪が収まったが、異例の寒波が続いている。対照的にプレーン南部では、乾燥して暖かく、風の強い天気が作物にストレスを与えている。3月30日現在、冬小麦の作柄は、「劣」以下がテキサス州で59%、オクラホマ州44%、カンザス州25%となっている。

米国中部及び東部で前線の活動が活発で、ミシシッピ川周辺、オハイオ渓谷の今後5日間の雨量は25～100ミリに達するだろう。プレーンズ、中西部、南部では強い雷雨が予報される。一方、プレーン南部は、乾燥して、風の強い天気が予報される。

Analysis valid 0000 UTC Wed 02 Apr 2014



TOPICｓ　世界の海面水温（NOAAより）



National Oceanic and Atmospheric

＜気象庁エルニーニョ監視速報3月10日号＞

2月の実況: エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続いている。

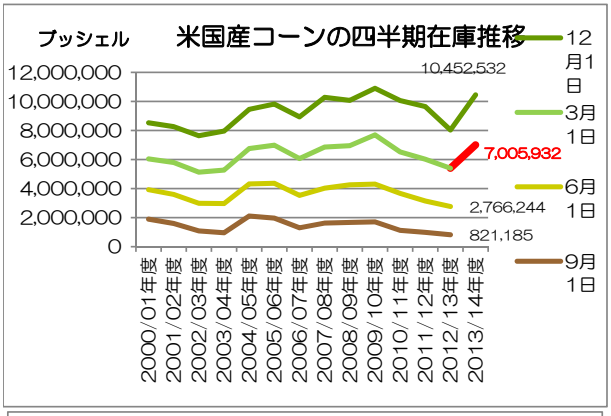
エルニーニョ監視海域の海面水温は基準値より低い値（基準値との差は-0.8℃）だった。太平洋赤道域の海面水温は、西部で平年より高く、中部から東部で平年より。海洋表層の水温は、西部から中部で平年より高く、東部で平年より低かった。中部太平洋赤道域の大気下層の東西風は、平年並だった。東部太平洋赤道域の海面水温が平年より低い状態は、海洋表層の暖水の東部への到達に伴い解消される見込みである。

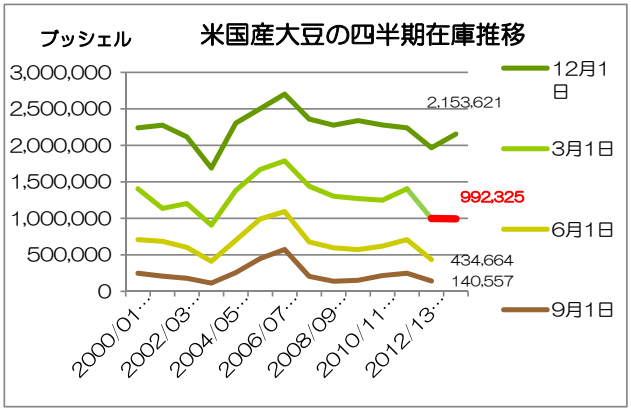
これらの海洋と大気の状態は、エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態を示している。

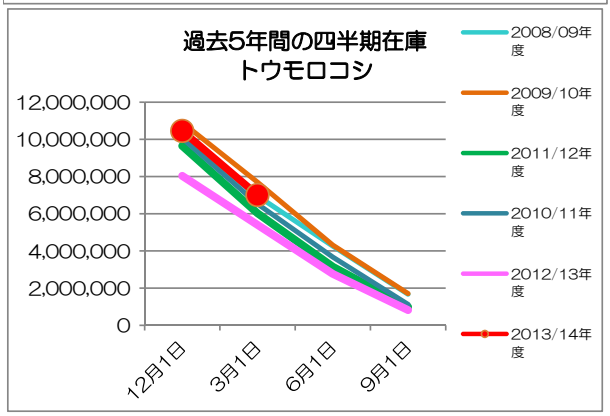
今後の見通し: :
今後春の間は平常の状態が続く可能性が高い。夏は平常の状態が続く可能性もあるが、エルニーニョ現象が発生する可能性の方がより高い。 エルニーニョ予測モデルは、エルニーニョ監視海域の海面水温が、春にかけて基準値に近い値で推移し、夏には基準値より高い値へ推移すると予測している。

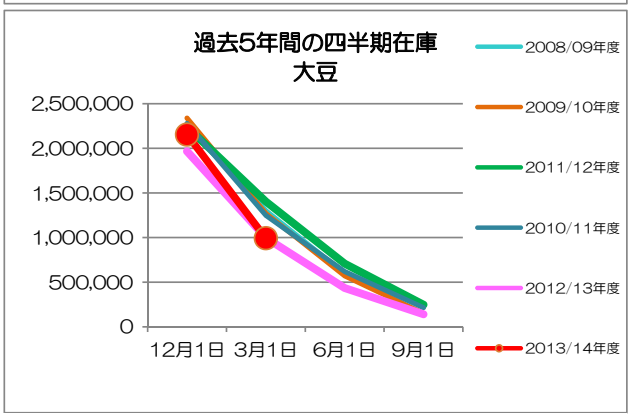
以上のことから、今後春にかけても平常の状態が続く可能性が高い。夏は予測の不確実性を考慮すると平常の状態が持続する可能性もあるが、エルニーニョ現象が発生する可能性の方がより高い。

TOPICｓ　四半期在庫







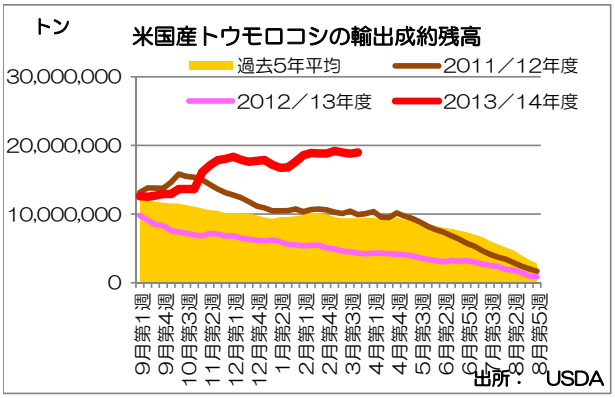


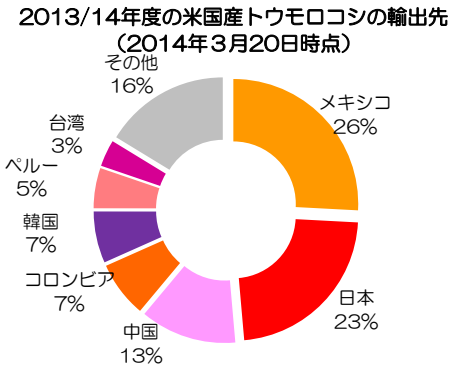
トウモロコシと大豆の四半期在庫は、大豆が昨年同様に少ないことが注目される。昨年並みの需要であれば、8月末に1億4千万ブッシェルの在庫が残ることになるが、昨年は輸出が低迷していた。今年は輸出が好調である点が異なる。

TOPICｓ　米国産トウモロコシの輸出状況

米国産トウモロコシの輸出成約残高

トン	2011／12年度	2012／13年度	2013／14年度	過去5年平均	前年比	前年比%	過去5年平均比	過去5年平均比%
1月第1週	10,473,474	6,225,184	17,191,099	9,314,610	+10,965,915	+276.2%	+7,876,489	+156.8%
1月第2週	10,479,588	5,994,196	16,743,063	9,568,481	+10,748,867	+279.3%	+7,174,582	+155.8%
1月第3週	10,497,060	5,571,815	16,783,511	9,564,327	+11,211,696	+301.2%	+7,219,184	+149.7%
1月第4週	10,739,448	5,532,064	17,617,250	9,709,604	+12,085,186	+318.5%	+7,907,646	+145.8%
2月第1週	10,344,605	5,365,185	18,570,019	9,908,045	+13,204,834	+346.1%	+8,661,974	+140.6%
2月第2週	10,664,436	5,470,209	18,887,306	10,212,601	+13,417,097	+345.3%	+8,674,705	+140.8%
2月第3週	10,728,884	5,476,450	18,833,793	10,082,456	+13,357,343	+343.9%	+8,751,337	+141.0%
2月第4週	10,600,722	5,059,401	18,821,505	9,947,459	+13,762,104	+372.0%	+8,874,046	+136.8%
3月第1週	10,277,229	4,933,486	19,201,367	9,591,373	+14,267,881	+389.2%	+9,609,994	+134.6%
3月第2週	10,077,977	4,607,215	18,977,414	9,377,306	+14,370,199	+411.9%	+9,600,108	+132.1%
3月第3週	10,432,035	4,517,552	18,796,101	9,405,404	+14,278,549	+416.1%	+9,390,697	+131.6%
3月第4週	9,919,040	4,305,975	18,974,378	9,413,165	+14,668,403	+440.7%	+9,561,213	+129.4%





3月20日までの米国産トウモロコシの輸出成約残高は、1,897万トンで前年の430万トンの4.4倍、過去5年平均の941万トンより29%多い。主な向け先はメキシコ26%、日本23%、中国13%、コロンビア7%、韓国7%等である。メキシコ向けは昨年の2.5倍、日本向けは1.2倍、中国向けは1.1倍である。昨年ほとんど買っていなかった中南米からの引き合いがある。

3月20日までの米国産トウモロコシの累積輸出成約高

千トン	向け先	今年	昨年	前年比
1	メキシコ	5,527	2,188	+253%
2	日本	4,873	3,894	+125%
3	中国	2,670	2,286	+117%
4	コロンビア	1,552	38	+4,063%
5	韓国	1,430	353	+405%
6	ペルー	1,117	0	
7	台湾	742	337	+220%
8	ベネズエラ	479	396	+121%
9	サウジアラビア	474	205	+232%
10	グアテマラ	365	136	+269%
11	エジプト	341	0	
12	コスタリカ	270	61	+445%
13	ドミニカ共和国	242	7	+3,310%
14	エルサルバドル	216	71	+306%
15	ベトナム	188	0	
16	ホンジュラス	169	93	+182%
17	ジャマイカ	131	134	+97%
18	パナマ	131	23	+567%
その他		482	428	+113%
合計		21,398	10,648	+201%

TOPICｓ　米国産大豆の輸出状況

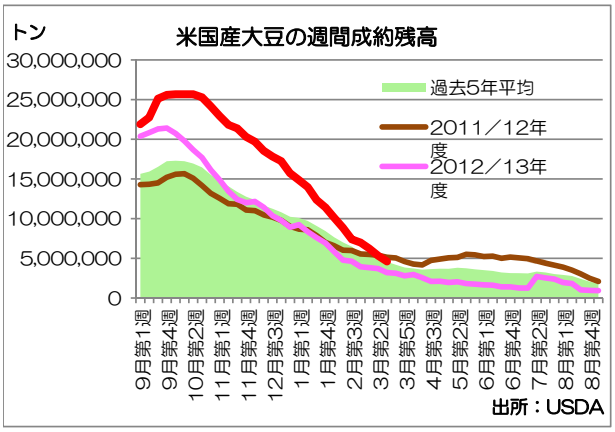
3月20日までの米国産大豆向け先別累積輸出成約高

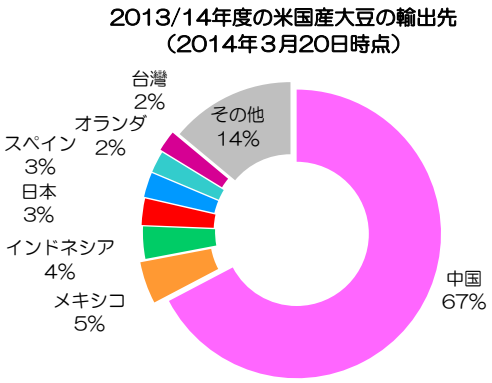
千トン	向け先	今年	昨年	前年比
1	中国	26,812	20,574	+130.3%
2	メキシコ	1,876	1,724	+108.8%
3	インドネシア	1,439	1,058	+136.1%
4	日本	1,178	1,194	+98.6%
5	スペイン	1,100	838	+131.2%
6	オランダ	951	735	+129.4%
7	台灣	924	887	+104.1%
8	ドイツ	676	965	+70.1%
9	韓国	531	515	+103.2%
10	ロシア	450	81	+555.2%
11	エジプト	448	649	+69.1%
12	ベトナム	422	452	+93.4%
13	タイ	390	557	+70.0%
14	フランス	353	98	+358.7%
15	トルコ	316	382	+82.8%
16	サウジ・アラビア	276	214	+129.4%
17	チュニジア	242	158	+152.7%
18	カナダ	215	180	+119.3%
その他		1,237	1,122	+110.3%
合計		39,835	32,382	+123.0%

COMMODITY INTELLIGENCE

米国産大豆の輸出成約残高								
トン	2011／12年度	2012／13年度	2013／14年度	過去5年平均	前年比	前年比%	過去5年平均比	過去5年平均比%
1月第1週	8,679,104	9,240,415	14,857,913	10,090,385	+5,617,498	+160.8%	+4,767,528	+147.2%
1月第2週	8,591,630	8,351,564	13,978,638	9,710,715	+5,627,074	+167.4%	+4,267,923	+144.0%
1月第3週	7,873,408	7,602,826	12,358,830	9,087,523	+4,756,004	+162.6%	+3,271,307	+136.0%
1月第4週	7,012,200	6,944,323	11,427,668	8,442,115	+4,483,345	+164.6%	+2,985,553	+135.4%
2月第1週	6,592,177	5,844,509	10,107,273	7,653,354	+4,262,764	+172.9%	+2,453,919	+132.1%
2月第2週	6,026,771	4,768,910	8,854,021	7,007,346	+4,085,111	+185.7%	+1,846,675	+126.4%
2月第3週	5,978,757	4,635,663	7,384,782	6,473,330	+2,749,119	+159.3%	+911,452	+114.1%
2月第4週	5,548,043	3,932,730	6,983,908	5,677,990	+3,051,178	+177.6%	+1,305,918	+123.0%
3月第1週	5,487,203	3,825,495	6,234,280	5,360,588	+2,408,785	+163.0%	+873,692	+116.3%
3月第2週	5,386,879	3,706,542	5,317,367	4,941,347	+1,610,825	+143.5%	+376,020	+107.6%
3月第3週	5,133,416	3,203,042	4,609,113	4,562,064	+1,406,071	+143.9%	+47,049	+101.0%

3月20日までの米国産大豆の輸出成約残高は、460万トンで前年の320万トンの1.4倍、過去5年平均の456万トンより1%多い。主な向け先は中国が全体の67%を占め3分の2となっている他、メキシコ、インドネシア、日本等となっている。





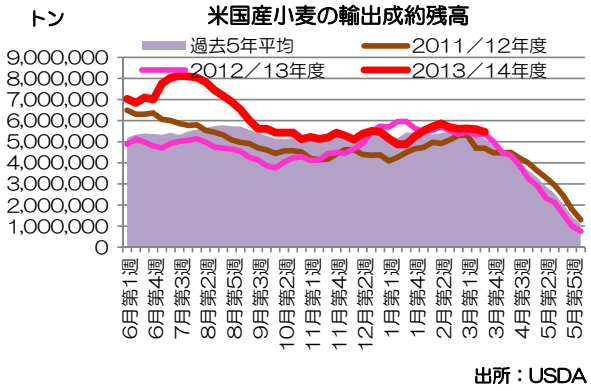
TOPICｓ　米国産小麦の輸出状況

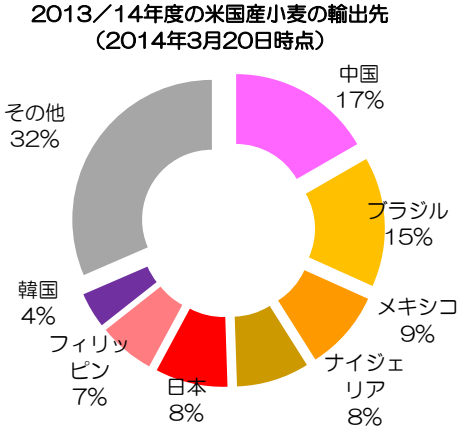
米国産小麦の輸出成約残高								
トン	2011／12年度	2012／13年度	2013／14年度	過去5年平均	前年比	前年比%	過去5年平均比	過去5年平均比%
1月第1週	4,088,156	5,700,560	5,148,810	5,294,586	▲551,750	▲13.5%	▲145,776	▲2.8%
1月第2週	4,257,101	5,951,927	4,881,895	5,167,012	▲1,070,032	▲25.1%	▲285,117	▲5.5%
1月第3週	4,486,411	5,965,154	4,882,622	5,434,112	▲1,082,532	▲24.1%	▲551,490	▲10.1%
1月第4週	4,666,485	5,634,703	5,255,461	5,431,646	▲379,242	▲8.1%	▲176,185	▲3.2%
1月第5週	4,730,835	5,468,120	5,526,376	5,378,325	+58,256	+1.2%	+148,051	+2.8%
2月第1週	4,974,683	5,543,321	5,719,706	5,342,813	+176,385	+3.5%	+376,893	+7.1%
2月第2週	4,916,004	5,726,361	5,866,870	5,415,224	+140,509	+2.9%	+451,646	+8.3%
2月第3週	5,087,079	5,514,227	5,684,601	5,451,364	+170,374	+3.3%	+233,237	+4.3%
2月第4週	5,295,377	5,365,938	5,607,698	5,399,611	+241,760	+4.6%	+208,087	+3.9%
3月第1週	5,309,303	5,467,367	5,628,917	5,375,596	+161,550	+3.0%	+253,321	+4.7%
3月第2週	4,698,673	5,315,055	5,590,743	5,211,634	+275,688	+5.9%	+379,109	+7.3%
3月第3週	4,689,352	5,372,961	5,460,804	5,147,026	+87,843	+1.9%	+313,778	+6.1%

米国産小麦の３月20日までの輸出成約状況				
千トン	向け先	今年	昨年	前年比
1	中国	4,082	592	+689.9%
2	ブラジル	3,680	72	+5,110.7%
3	メキシコ	2,274	2,280	+99.7%
4	ナイジェリア	2,065	2,301	+89.7%
5	日本	2,049	2,870	+71.4%
6	フィリッピン	1,593	1,558	+102.3%
7	韓国	1,008	1,147	+87.8%
8	インドネシア	811	435	+186.3%
9	台湾	793	860	+92.3%
10	コロンビア	542	452	+120.0%
11	チリ	540	369	+146.5%
12	ベネズエラ	506	487	+103.9%
13	ペルー	501	344	+145.7%
14	グアテマラ	460	454	+101.1%
15	タイ	430	387	+111.1%
16	ドミニカ共和国	381	384	+99.1%
17	イタリア	370	382	+97.0%
18	イェメン	207	260	+79.9%
その他		2,165	4,287	+50.5%
合計		24,456	19,919	+122.8%

3月20日までの米国産小麦の輸出成約残高は、546万トン、前年の537万トンに比べ、8万7千トン増、前年比1.9%増、過去5年比6.1%増である。

主な向け先は中国、ブラジル、メキシコ、ナイジェリア、日本、フィリッピン等であるが、ブラジルは例年アルゼンチンから輸入しているが、今年はアルゼンチンが乾燥気候のため小麦の生産が悪く、国内向けで手一杯で輸出が少なくなったため、ブラジルは米国から小麦を輸入している。





今後の予想

3月31日の作付意向面積が公表され、予想通り大豆の作付が増加してトウモロコシが減少するという結果になったが、トウモロコシの作付面積が事前予想よりも少なかったためトウモロコシ価格が上昇した。大豆はほぼ予想通りの増加であり、トウモロコシが前年比▲3.9%下源（予想は▲2.6%減）、大豆は前年比+6.15%（予想は+6.1%）、小麦は前年比▲0.7%減（予想は▲.8%減）であった。同時に発表された四半期在庫は、例年と同じような動きであるが、大豆の在庫が昨年並みに少ないことが挙げられる。今年の大豆の在庫量は綱渡りである。輸出は、トウモロコシは、前年の4.4倍の成約残高がある。そのため、今後需給報告があるたびに、期末在庫率は減少していくものと思われる。大豆の輸出は、国別の成約高累計で見ると23%増であり、成約残高では1%増であるが、今後中国の輸入契約のキャンセルがどれだけ出るかによって、大豆の期末在庫の予想量は変わってくる。中国では、大豆油を作り過ぎの傾向があり、また豚肉価格が安くなっており、養豚業者による大豆粕使用量が減少すると輸入契約をキャンセルする可能性がある。今年の大豆需給は大豆輸入のキャンセルがあってちょうど良い程度であるが、価格は中国のキャンセルが報告される都度下がるであろう。トウモロコシ価格は、今後の天候状況を見ながら強含みで推移すると思われる。気象庁の3月の発表では夏にエルニーニョの発生する可能性が高いと述べている。次回4月6日の公表が注目される。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス （以下「COMMi」という） が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。
本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。
本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正･加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。
COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。
本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。
本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。
COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：
株式会社コモディティー インテリジェンス
〒103-0014東京都中央区日本橋蛎殻町1丁目11-3-310
会社電話： 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス： kondo@commi.cc